

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日 令和7年3月15日

法人名	園 名
学校法人吾田学園	幼保連携型認定こども園 あがた幼稚園

全体平均 4.19

第2章第2節 乳児期の園児 の保育	園の保育・教育理念の1つである「笑顔で やさしく、しっかり抱いて ゆっくりおろして 歩かせよ」の 思いを大切にして乳児保育の環境を整えてきた。園児一人ひとりの存在を大切にして、温かい家庭的な雰囲気 のもとに、愛情をより注いでいくには、更なる保育者の優しい微笑みや会話を大切にしていきたい。
第2章第3節 満1歳以上満3 歳未満の園児 の保育	健康や環境、表現などにおいてはある程度の充実した自己評価を捉えることができたが、人間関係や言葉な ど園児一人ひとりの気持ちに対して更に丁寧に接していくことが求められているように感じられた。園児一人 一人の行動や思いをありのままに認め、期待を持って見守りながらも、子どもが欲求を満たしたいという気持 ちの時に、一人ひとりの思いを受け止める会話を心掛けていきたい。
第2章第4節 満3歳以上の園 児の教育及び 保育	園の保育・教育理念の中にある「自ら選択し、工夫して努力し、責任をもって取り組む、生きる力を育て る」と「自分と周りの人を大切にし、自分の心に挑戦していく、きらり輝いた心をもった子どもたちを育て る」から、園の環境を十分に生かして、園児の心と体の成長が感じられ、保育者と園児との信頼関係が深まっ ていると考えられる。今後も園児が遊びの中で心を動かされた経験を大切にしていきたい。そのために園児が 試行錯誤しながら考えを巡らせている時間を十分に確保し、更には保育者が園児のイメージを大切に活動 を受け入れ、共感していくことにより豊かな感性を表現する力が育っていくような環境を作っていくことが必 要となる。
第2章第5節 教育及び保育 の実践に関わ る配慮事項	衛生的に十分配慮していきながら家庭の温かな雰囲気を大切にし、室内にこもりがちにならないように、外 へ外へと日光に当たるように心掛けている。また、保育者は、保護者との日常の会話の中で、家庭の様子を察 したり、保護者の気持ちを汲み取り、小さな相談を聞いたり、心が安らぐ会話を心掛けている。園児の声や 表情、仕草などを通しの欲求に対して、共感的に対応していくことを大切にしていきたい。園児の行動や気持 ちを認めながら、焦らずに援助していく見守ることの大切さを改めて感じている。
第3章 健康及び安全	季節に応じた体調管理を心掛けながら、園児の健康状態や生育歴を考慮し、こまめな対応を行っている。園 児の健康増進や食育の充実等の取組において、自然に恵まれた地域性や環境の工夫により充実が図られてい る。また、施設の安全性や災害発生時の対応も、園児や職員の命を守るために真剣な対策がとられている。た だし、更に危険度が高い災害や様々な状況を考えて、安心することなく、緊張感をもって、地域の方や関係機 関と連携を深めて、今後も訓練や対策を行っていききたい。
第4章 子育ての支援	日々の会話の中で子どもの成長や楽しかった活動の様子などを保護者へ伝え、安心して子育てができるよう なコミュニケーションを心掛けている。また、ドキュメンテーションやICT化、SNSを活用して園児の成長 が分かりやすく感じられる工夫をしている。プライバシーを保護しながら、子育てが楽しく感じられるよう な発信を園として取り組んでいる。 地域における子育ての支援では、マタニティ期から就園前までの地域の親子が気軽に足を運べるような居場 所づくりをしている。地域の人材を生かしながら楽しい活動が行われたり、親子の心が安らぐような優しく温 かな雰囲気の環境を大切にしている。
第5章 職員の資質 向上	職員の専門性を生かすためにも、質の良い研修を受けていくことが大切である。また、その後に日々の保育 にどう生かせるか、職員同士が保育の質の向上を目指して話し合う時間を確保していきたい。そして、役割に 応じて力を発揮できるように、専門性を高めることができる研修に積極的に参加していきたい。
総合	園の保育・教育理念に基づき、子ども一人ひとりを大切にし、温かな雰囲気作りに努めている。特に、健康や 情緒の安定、基本的生活習慣の定着、人間関係の構築、遊びや活動を通じた主体性の育成など、多方面でバラ ンスの取れた保育を実践している。また、過程との連携や地域とのつながりを重視し、ICTやSNSも活用しな がら保護者への情報提供を行っており、安心して子育てできる環境作りにも取り組んでいる。 今後は、職員の専門性を高めるための研修の継続的な実施や、園児の発達や個性に更に応じた支援の充実を 図り、保育の質の向上を目指していきたい。また地域の人材や資源を活用した保育および子育て支援の深化な ど保護者や地域との連携強化も図っていききたい。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.53
「3歳未満児保育」	32	4.25
「3歳以上児保育」	53	4.23
「教育保育の配慮事項」	16	3.63
「健康・安全」	29	4.14
「子育ての支援」	18	4.22
「職員の資質向上」	9	4.22
計	172	4.19

データグラフ

